



くりっぴ

CREATIVE LEARNING INFORMATION PAPER

子どもたちの創意ある学習活動をバックアップする情報紙

じっくり、着実に

ホップ、ステップ、ジャンプ

新しい学習指導要領がめざすのは、いきいきと学習に取り組める学校づくりです。

平成14年度からの学校週5日制の完全実施に伴って、学校のカリキュラムの基準である学習指導要領が改訂されることになりました。新学習指導要領は、子どもたちの生きる力を育むために、ゆとりをもった基礎・基本を身につけ思考を深めていくプロセスを重視。さらに一人ひとりのよさや可能性を最大限に伸ばさせることができるよう、各学校が自主性を発揮しやすくするなど、のさまざまな工夫を盛り込み、これからの学校のありかたを示すものになっています。

制の完全実施に伴って、学校のカリキュラムの基準である学習指導要領が改訂されることになりました。

子どもたちの生きる力を育むために、ゆとりをもった基礎・基本を身につけ思考を深めていくプロセスを重視。さらに一人ひとりのよさや可能性を最大限に伸ばさせることができるよう、各学校が自主性を発揮しやすくするなど、のさまざまな工夫を盛り込み、これからの学校のありかたを示すものになっています。

豊かな人間性や社会性を身につけ、国際社会に生きる人間としての自覚を育てます

創造性を培い、自ら学ぶ意欲や、考える力を育てます

基礎・基本を確実に身につけ、個性を生かせる学習環境をつくります

オリジナリティや工夫を生かした特色ある学校づくりを進めます



24時間いつでも、どなたでも—ネットでコミュニケーション

教育長ホームページ「ホットライン教育ひろしま」では、引き続き教育行政に対する意見を募集しています。教育改革に関する情報提供も今後さらに充実させて、皆さんのアクセスをお待ちしています。

ホームページの主な内容

- トップページ
- 意見記入ページ→様式にしたがって簡単に記入できます。
- 意見の広場→皆さんからいただいた意見を紹介しています。
- 教育委員会の主な施策紹介→義務教育改革の取り組みや県民意識調査の結果などの情報提供をおこなっています。
- 関係機関へのリンク集→広島県ホームページに接続して集約情報を閲覧したり、文部省ホームページで新学習指導要領など最新教育情報にアクセスできます。

ご意見等は、広島県教育委員会事務局
らみしファックス等
郵送でも受け付けています。

【教育長ホームページ】<http://www.hiroshima-cdas.or.jp/jpref/kyoiku/hotline/>

【県政らみしファックス】FAX082-224-1122 ボックス番号80034

【郵送】〒730-8514 広島市中区基町9-42 広島県教育委員会管理部長秘書 宛（「ホットライン」と明記していただければ幸いです。）

新しい学習指導要領で
ここが変わる、こう変わる

小学校では



- 低学年では基本的な生活習慣や善悪の判断ができることを重視した指導をおこないます
- 人物・文化遺産を中心とする歴史学習を通じて、歴史や文化に対する理解と愛情を育みます

中学校では



- 選択学習の範囲を広げます
- 外国語は必修とし、聞く・話す能力の育成を重視します
- 技術・家庭科で情報に関する学習が必修になります

高等学校では



- 卒業に必要な総単位数、必修科目の単位数を減らします
- 科目選択の幅を一層広げます。必修科目でも、保健体育を除くすべての教科が複数の科目から選んで履修する選択必修に変わります
- 各学校独自の教科・科目が設定できるようになります
- 情報化の進展に主体的に対応できる力を育てる必修教科「情報」を設けます
- 専門教育に関する教科として、「情報」「福祉」を新設します

盲・ろう・養護学校では

- 個に応じたきめ細かな教育をおこないます
- 「養護・訓練」を「自立活動」と改め、主体的な活動を進めます
- 障害児教育に関する相談センターとしての役割を果たします

- 学校週5日制の完全実施に伴い、年間授業時数を削減します(週当たり2単位時間)
- 教育内容を厳選し、基礎的な内容を繰り返し学習して確実に身につけることができますようにします
- 各教科の指導にあたっては、自ら学ぶ意欲、論理的な思考力、表現力などの育成に重点をおきます
- 小学校3年生以上に新しく「総合的な学習の時間」を設け、環境、国際理解などのテーマ、また子どもたちの興味や進路にあわせたテーマにそった、自主的な学習活動を促します
- 各教科や総合的な学習の時間に体験的、問題解決的な学習活動を積極的にとりいれます
- コンピュータなど情報機器の活用能力を育てる教育を推進します
- 授業の1単位時間や時間数の規定を弾力化し、学校の創意工夫を生かした時間割編成を可能にします
- 教科の特質に応じて複数の学年が一緒に学ぶなど、各学校独自の取り組みが可能です



平成10年7月の教育課程審議会審申を受けて、幼稚園・小・中・高等学校及び盲・ろう・養護学校の各指導要領が10年ぶりに全面改訂されます。学ぶ内容をより厳選するとともに選択の幅を一層広げ、それぞれの年齢にあわせた主体的な学習活動を充実させていくようさらなる創意工夫が求められています。広島県でもその趣旨を生かした教育の実現にむけて、すでに学校現場での態勢づくりや環境づくりを進めています。

教える場から学ぶ場へ
新しい学校づくりへの取り組みはもう始まっています。



■新教育課程実施までのタイムスケジュール

年度	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年
5日制		月2回			毎週	
学習指導要領・教育審議会						
幼稚園	12月告示	趣旨説明	全面実施			
小・中学校	12月告示	趣旨説明	移行措置		全面実施	
高校	3月告示	趣旨説明	移行措置			1年生から適用
盲・ろう・養護学校	3月告示	趣旨説明				幼稚園～高校のそれぞれに応じて実施

開かれた
学校づくりの
推進にむけて

保護者・地域の人が積極的に関わっている学校に、家庭や地域に対する積極的な情報公開、地域の人が自由に参観したり、いつでも提言や意見を述べられるシステムづくりなど、三者が協力して子どもたちを育てていくためのネットワークづくりの必要性が認識されました。

豊かな心をはぐくむ
教育の推進にむけて

学校・家庭・地域社会の教育力の再生をめざして、家庭のしつけ、地域社会での活動、学校における道徳教育などの取り組みをあらためて見直し、連携を強化していくよう促しています。余暇教室を利用して地域の人と子どもたちがふれあう場を作るといった提言も盛り込まれました。

体験活動を積極的にとりいれよう

知識として「知る」のではなく、体験を通じて「感じ」「考える」ことなど、豊かな心をはぐくみます。子どもたちの人間関係や生活体験を厚みのあるものにするため、学校・家庭・地域社会それぞれの場で体験活動を進めたいと求めています。

基礎・基本の定着と
個性重視の
教育の推進にむけて

新しい教育課程実施にむけた学校の態勢づくりを

基礎的・基本的な内容を繰り返し学習したり、児童生徒一人ひとりの興味・関心、学習進度などに応じた学習をさらに充実させることが必要です。教育内容や指導方法の多様化にむけ、各学校での新しい教育計画の立案が求められています。

教職員の指導力向上を図る

県民意識調査でも特に要望の強かった項目です。社会や子どもを取り巻く状況の変化に対応した教職員の意識改革や指導力の向上が求められています。校内での研究活動づくりや学校間の情報交換、研修機会の拡充などが提言されました。

**義務教育改革推進協議会の
三次報告がまとまりました。**

義務教育改革ビジョンの策定をめざす県教育委員会に対して、義務教育改革推進協議会から、三次報告「活力ある広島県の教育の実現をめざして」(将来を見据えて取り組むべき方策)が提言されました。

公聴会や関係者からのヒアリング等さまざまな方法でお聴きしたみなさんの意見や提言、県民意識調査をはじめとする多くの調査結果を参考としながら協議してきた結果、昨年の報告で示された3つの柱それぞれについて取り組むべき方策が具体的に示されています。この報告をふまえて、県民のみなさんとともにさらに議論を深め、最終報告がまとめられます。



義務教育改革
経過報告

のびのびとした

学びの場づくりをめざして

予算に盛り込まれた教育改革への試み

平成11年度の教育委員会当初予算の総額は約2533億円。義務教育の改革、特色ある高校づくり、障害児教育の充実などをすすめるための事業を実施します。子どもたちが個性を伸ばし、生き生きと学べる学校づくりにむけた様々な取り組みの中から、新規事業を中心にいくつかをご紹介します。

各高校独自の独創的な取り組みを支援する

フロンティア21事業

それぞれの県立高等学校から提案された事業プランの中から、各地域の関係者や県民代表などで構成する審査員がコンペ方式で7校程度を選出。総額1400万円の支援をおこなうとともに、その成果をインターネット等を利用して定期的に経過報告し、地域参加型の報告会開催などを進めて公開します。プランの内容や実施方法は自由。学校の特長づくりに向けて、工夫をこらしたアイデアに期待してください。



情報化教育の拠点づくり

教育情報 ネットワーク 拠点整備事業

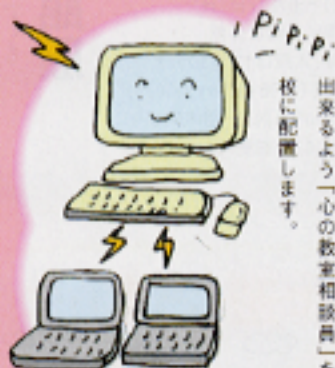
高度情報化社会に対応できる情報活用・発信能力を育成するため、平成11年度中に県立高校の3分の2にあたる78校にインターネットを接続します。さらに指導者の養成や新たな授業内容の創造に向けて、教育センターを情報ネットワークや教育用ソフトウェア、フリー機能をあわせもつ情報通信ネットワークの拠点として整備します。



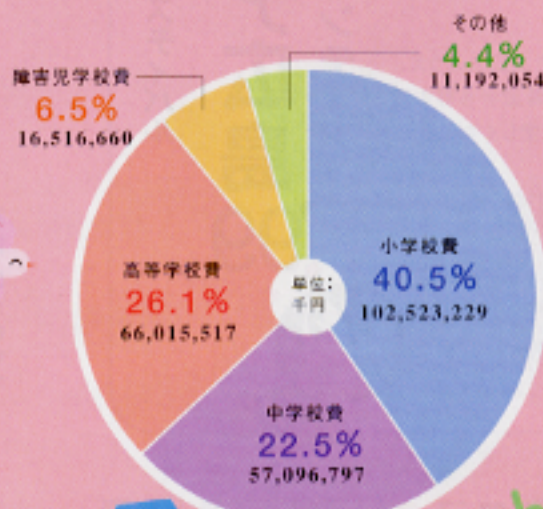
いじめを防ぐ心のケアの充実をめざして

教育相談 推進事業

いじめ、不登校児童生徒の増加など、従来の学校態勢だけでは対応することが困難になっているこれらの問題の解決に向けて、臨床心理士等の専門家をスクールカウンセラーとして派遣し、児童生徒の悩みに応える場を設けるとともに、新たに中学生がよりフレンドリーな関係で相談が出来るよう「心の教育相談員」を42校に配置します。



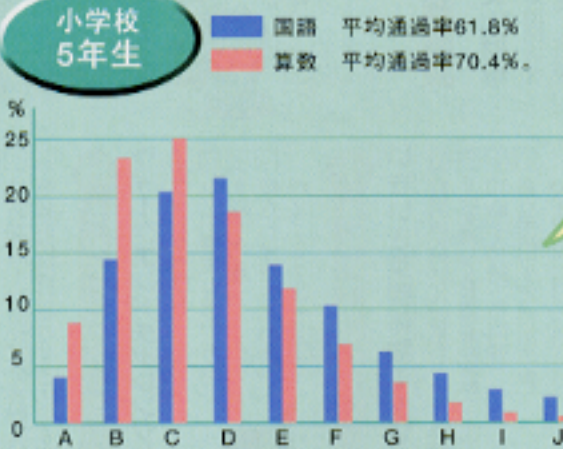
平成11年度当初予算
教育委員会所管 253,344 百万円



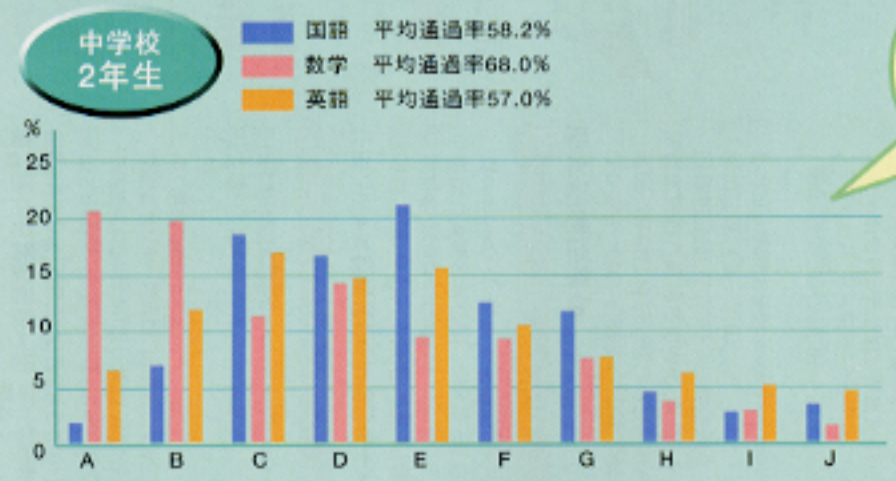
School

データから考える義務教育改革

区分	通過設問数の割合
A	90%~100%
B	80%~90%未満
C	70%~80%未満
D	60%~70%未満
E	50%~60%未満
F	40%~50%未満
G	30%~40%未満
H	20%~30%未満
I	10%~20%未満
J	0%~10%未満



小学5年生では、通過設問数の割合が60%を超える児童が
●国語60.2% ●算数75.0%
を占め、身につけてほしい内容はほぼ定着しているといえます。

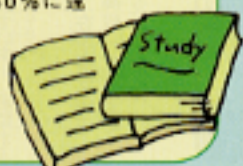


中学2年生では、通過設問数の割合が60%を超える生徒が
●国語44.0% ●数学66.0% ●英語50.3%
という結果がでました。数学についてはおおむね定着していますが、国語、英語についてはやや不十分と思われます。

義務教育改革を進めるにあたり、まず子どもたちに「基礎・基本」は身につけているかの状況を把握しよう。平成10年9月~10月にかけて県内の小学5年生と中学2年生それぞれ約2,000人を対象に、「基礎・基本」定着状況調査を実施しました。各教科とも通過設問数の割合(設問総数に対する正答及び考え方が正しい準正答の割合)60%が、指導内容がほぼ定着していると考えられるめやすです。さて、気になる結果は?

今後の課題

通過設問数の割合が60%に達していない児童・生徒に基礎的・基本的な内容をどう定着させていくかが今後の課題です。



みんな大切なひとりです

よりよい
地域社会を
築くために



1993(平成5)年に総務庁が実施した「同和地区実態把握等調査」(広島県分)によれば、「同和地区や同和問題についてはじめて知ったきっかけ」は「家族」からが31.7%と最も多く、「学校の友だち」「近所」「職場」「親戚」などを合わせると、52.8%が身近な人から聞いています。また「学校の授業」は28.3%で、特に20歳から39歳の年代では「学校の授業」からが7割を占めています。

同和問題解決のためには、学校教育の果たす役割が重要であることは言うまでもありません。しかし「講じた見方や考え方が保護者から子どもへ、子どもから友達へと伝わっていく例は決して少なくないことを考えるとき、家庭や地域においても「正しく知り、正しく伝える」ことは非常に大切なことです。各地で実施されている住民学習会などの取り組みに積極的に参加して、同和問題に対する正しい理解と認識を深め、同和地区に対する偏見と差別をなくしましょう。そして身のまわりにある差別的な意識やそれを助長する不合理な因習等を、「身元調査お断り運動」などの具体的な行動を通して改めていくことが大切です。

日々の仕事や身近所のつきあい、家庭生活のなかにある不合理や矛盾に気づき、それをなくしていくために地域ぐるみで取り組んでいくことが、「一人ひとりが大切にされる」「差別のない明るく住みよいまちづくり」へとつながっていくのです。誰もが安心して生活できるよりよい地域社会を築くために、ともに取り組んでいきましょう。

今回は私たちと同和問題のかかわりを通して、よりよい地域社会づくりについて考えてきました。同和問題の早期解決をめざして、私たち一人ひとりが人権意識を高め、自分自身の課題として学び、行動すること。それが「差別のない明るく住みよいまちづくり」につながるのです。

最初で最後の日本公開
ルノワールが、セザンヌが、ピカソが、19世紀パリの音楽を運んでくる
パリ オランジュリー美術館展



会場 県立美術館 TEL082(221)6246
期間 4月17日(土)～6月27日(日)
※5月3日を除く月曜日休館
時間 10時～18時(入館は17時30分まで)
入館料 一般/1,300円(前売・団体1,000円)
高・大学生/700円(前売・団体500円)
小・中学生/400円(前売・団体200円)

パリ・セーヌ河沿いのチュイルリー公園に建つオランジュリー美術館は、パリで最も人気のある美術館のひとつです。今回、そのすばらしい作品の数々が日本に公開されることになりました。本展では日本初公開の65点を含む81点をご紹介します。ルノワール(17作品)、セザンヌ(14作品)をはじめピカソ、マチス、モネなど、13人の巨匠の名作を集めた貴重なコレクションの数々をぜひご鑑賞ください。



講演会「エコール・ド・パリの魅力」

講師:木島 俊介(美術評論家)
5月23日(日)14時～
1部(前売)まで1人につき1枚の申込はがきまで申し込みください。
●ギャラリートーク 4/23.5/14.5/28.6/11.6/25
第2・第4会場 11時～(各異) 半堂員が展示作品について解説します。

募集
第11回全国生涯学習フェスティバル
まなびが創る 新たなかけ橋

企画運営支援ボランティア

実行委員会が1回程度開催する研修講座、企画運営検討会議に参加し、実行委員、企画運営の企画運営、ガイドブック作成などを支援していただきます。また大会期間中は運営パートナーとして活動していただきます。

- 活動期間 平成11年5月～10月
- 募集人員 30人程度
- 申込方法

所定の申込書に必要事項をご記入のうえ、郵送ください(FAXも可)。希望者多数の場合は事務局で調整のうえ決定しますのでご了承ください。

●申込締切 平成11年5月7日(金)
※期限内でも定員になり次第、締切とさせていただきます。

【問合せ・申込先】
第11回全国生涯学習フェスティバル実行委員会事務局
〒730-8514 広島市中区基町9-42
(広島県教育委員会生涯学習課内)
TEL 082-228-2111(内線5015)
FAX 082-212-3331



家族で遊ぼうホリデー



おでかけガイド
※詳細については、①にご確認ください。
②には、①より、各施設の詳細や料金などを掲載します。
③の表記がないものはご参加できません。

- A 4/24(日) 桜茶会
県青年会が主催
10時～15時
会場 県立歴史資料館(2F) 30620
- B 4/23(土)～5/23(日) まなび海道をめぐる文化財展
広島県と愛媛県を結ぶ西瀬川自動車道開通を記念して、香予地方に由来する文化財を紹介し、しまなみ海道が結ばれる歴史的意義を明らかにします。
9時～17時(入館は16時30分まで)
会場 県立歴史資料館(08449)3120613
- C 4/23(土)～6/13(日) 春の展示会
ひろしま考古情報
広島県北の最新発掘成果を中心に、広島県北における歴史の発掘調査や発掘された文化財の展示をいたします。
9時～17時(入館は16時30分まで)
会場 県立歴史資料館(08449)3120613
- D 4/24(日) 「しまなみ海道をめぐる文化財展」開催記念講演
講演者 中世の瀬戸内海をめぐって(中野 実)
10時30分～
会場 県立歴史資料館(08449)3120613
- E 4/24(日)～6/26(日) こども歴史相談展
歴史を楽しく学ぶための相談コーナー
小・中・高校生
9時～17時
会場 県立歴史資料館(08449)3120613
- F 4/25(日) 展示解説会
「しまなみ海道をめぐる文化財展」
学芸員による展示解説
10時30分～(各回共)
会場 県立歴史資料館(08449)3120613
- G 4/25(日)～6/30(日) 展示解説会「ひろしま考古情報」
学芸員による展示解説
13時30分～14時30分(各回共)
会場 県立歴史資料館(08449)3120613
- H 5/8(日) ウィークエンドチャレンジサークル
ウッドクラフト
小・中学生とその家族
9時～15時
会場 県立七塚原青年の家
082247(4)0111
- I 5/8(日)～10/23(日) いきいき菜園体験Ⅰ～Ⅵ
野菜の植え付けから収穫まで体験します。
①～⑥回を通して参加可能な家族(小中学生は①～⑥回)
10時～15時(各回共)
会場 県立吉田少年自然の家
082247(4)0111
- J 5/19(土)～20(日) ホタル教室
ゲンジボタル・イケボタルの観察
小・中学生とその家族
19日16時～、20日14時～
会場 県立吉田少年自然の家
082247(4)0111
- K 5/8(日) 茶摘茶会
上田茶摘習和風会が主催
10時～15時
会場 梅原園(08449)3120613
- L 5/16(日) 第90回博物館講座
「しまなみ海道をめぐる文化財」としての歴史を楽しく学ぶ
14時～15時30分
会場 県立歴史資料館(08449)3120613
- M 5/12(土)～5/20(日) 映画にふれるひろしま
まんが日本語はなし
14時～16時
会場 県立歴史資料館(08449)3120613
- N 5/22(日) 第20期文化財講座第1回 展示会開催記念
発掘成果報告会「広島県北の遺跡めぐり」
県北の遺跡を中心に近年県内でおこなわれた発掘調査の成果を(財)広島県埋蔵文化財調査センター 企画及び各市町村埋蔵文化財センター 協賛
14時～17時
会場 県立歴史資料館(08449)3120613
- O 5/22(日)～23(日) ホランティア推進講座「であいむトーク」
読書、実習、スポーツ活動、創作活動
青年からご参加ください
会場 県立七塚原青年の家
082247(4)0111
- P 5/29(土)～30(日) 野外活動研修会
レクリエーションの指導法や野外炊事、実際に体験しながら楽しく学びます
野外活動に興味のある方、学校・少年団体指導者、ボランティア希望者
29日14時30分～30日14時
会場 県立吉田少年自然の家(082247)3120613

授業料等減免制度や奨学金制度を活用ください

学年	入学年	国・公立		私立	
		公立	私立	公立	私立
高 校	平成11年	17,000	22,000	29,000	34,000
	平成10・9年	16,000	21,000	28,000	33,000
	平成8年	14,000	19,000	26,000	31,000
大 学	平成12年	17,000	22,000	29,000	34,000
		20,000	21,500	31,000	34,000
		41,000	47,000	50,000	60,000
大 学	平成12年	41,000	47,000	49,000	56,000
		きぼう21プラン 3万円・5万円・8万円・10万円の中から選ぶことができます。			

お問い合わせ先 広島県立大学広島校の先生または日本育英会広島支部
広島市中区中町8-18 TEL 082-249-9443

●授業料等の減免
広島県では、生活保護(生活扶助)を受け、広島県立大学や市町村立校に在学している、県立高等学校の授業料および受講料の減免を実施しています。ご相談・お申し込みは各高等学校で受け付けています。お問い合わせ先
県立高等学校各校または県教育委員会指導課(2F) TEL 0822473120613

●日本育英会奨学生募集
平成11年度日本育英会奨学生募集が4月からスタートしています。これは学生の二倍として奨学金を支える奨学生(福利学生)を募集するものです。0.000人が利用しています。高学年の人は学校まで申し出ていただく。
対象
●高校在学中の生徒(在学奨学生)
●平成12年4月に高校・高等専門学校、短大に進学予定の生徒
は大学・短大に進学予定の生徒
(予約奨学生)

●授業料等の減免
広島県では、生活保護(生活扶助)を受け、広島県立大学や市町村立校に在学している、県立高等学校の授業料および受講料の減免を実施しています。ご相談・お申し込みは各高等学校で受け付けています。お問い合わせ先
県立高等学校各校または県教育委員会指導課(2F) TEL 0822473120613

●日本育英会奨学生募集
平成11年度日本育英会奨学生募集が4月からスタートしています。これは学生の二倍として奨学金を支える奨学生(福利学生)を募集するものです。0.000人が利用しています。高学年の人は学校まで申し出ていただく。
対象
●高校在学中の生徒(在学奨学生)
●平成12年4月に高校・高等専門学校、短大に進学予定の生徒
は大学・短大に進学予定の生徒
(予約奨学生)